

CT・MRI 検査／消化管内視鏡検査のご案内

当院では地域の先生方からのご依頼により、CT・MRI ならびに消化管内視鏡検査を積極的にお受けしております。

通常の場合、患者さんに当院外来各科を受診していただき、担当医の指示により、同日あるいは後日に検査を実施しておりますが、地域の先生方から地域医療連携課経由で検査予約をお取りいただければ、**二度の来院は不要となり、予約日にお越しただけのみで検査をお受けいただくことが可能です。**

CT・MRI 検査は単純撮像にとどまらず、**水曜日のみ**ではありますが**造影検査**も実施しております。2023 年度は MRI 検査 541 件、CT 検査 224 件を地域の先生方からご依頼いただきました。

また、消化管内視鏡検査では日本消化器内視鏡学会指導医・専門医による高度かつ負担の少ない検査を提供しております。2019 年度の地域の先生方からのご依頼実績は上部消化管 203 件、下部消化管 49 件でした。

いずれの検査も、**ご依頼は地域医療連携課にて承ります。**お申し込みに必要な書類や流れなどがございますので、お気軽にお問い合わせください。



日々の診療にあづみ病院をぜひご利用ください！

『オープンベッド（開放型病床）のご案内』 <<大北医師会所属の病診連携登録医の先生方へ>>

当院では、2005 年より「開放型病院システム運営実施要綱」を定め、「オープンベッド（開放型病床）」の届出をし、運用を行っております。大北医師会所属の登録医に対して、病院の施設・設備を開放し、地域医療連携課を通して、あづみ病院の主治医と連絡を取りながら、共同して入院診察・検査・治療をすることができます。

現在、利用可能な入院ベッドを 5 床ご用意しております。ご希望がありましたら、お気軽に地域医療連携課までご用命、ご相談ください。

『病診連携登録医募集のご案内』（地域の医療機関の先生方へ）

当院では、患者さんを中心とした地域医療を円滑に推進するため、地域の医療機関の先生方のご支援・ご協力をいただきながら、地域医療連携をさらに充実・発展・密なものとするべく『病診連携医登録制度』を設けております。詳しくは、地域医療連携課へお気軽にお問い合わせください。

患者さんのご紹介等に関するお問い合わせ・ご要望は、地域医療連携課で承っております



北アルプス医療センターあづみ病院 地域医療連携課

TEL (直通) 0261-61-1455 FAX (直通) 0261-61-1456

E-mail renkei@azumi-ghp.jp

受付時間 平日 8 時 30 分～17 時 00 分 土曜日 8 時 30 分～12 時 30 分 (診療日に限り)

※ 受付時間を過ぎますと電話は夜間休日窓口へ転送されます

連携室だより

2024 年 8 月発行 JA長野厚生連 北アルプス医療センターあづみ病院 〒399-8695 北安曇郡池田町大字池田 3207-1 編集発行/地域医療連携課 TEL 0261-61-1455 FAX 0261-61-1456

北アルプス医療センターあづみ病院 地域医療連携広報誌

連携課だより

北アルプス医療センターあづみ病院 理念

質の高い医療と社会への貢献をとおり、地域の皆さまから信頼される病院を築きます。

中央処置 Central treatment room

CONTENTS

第 63 回地域連携懇話会

新任医師紹介

がん相談支援センター がん仕事「両立支援相談会」

CT・MRI 検査／消化管内視鏡検査のご案内

JA長野厚生連

北アルプス医療センター あづみ病院 地域医療連携課

81
August 2024

第63回 地域連携懇話会

2024年7月17日 開催
あづみ病院 7F やまなみホール

「10年で変わった小児科診療～コロナだけではない指針の改訂～」

講師 北アルプス医療センターあづみ病院
小児科統括部長 小口 弘子 医師



7月17日、当院にて第63回地域医療連携懇話会を開催いたしました。近隣の医療機関の先生方をはじめ、北アルプス広域消防本部の皆様、院内職員合わせて29名の参加がありました。

当日は今年4月に着任した松田正之統括院長の挨拶ののち、地域連携ディスカッションにて当院における昨年度の紹介割合・逆紹介割合の推移報告と今年度着任医師の紹介を行いました。つづく医学学術講演では、「10年間で変わった小児科診療～コロナだけではない指針の改訂～」と題して、当院小児科統括部長 小口 弘子 医師よりお話をいただきました。

小児感染症治療の変化、熱性けいれんと夜尿症のガイドラインの改定、神経発達症（発達障害）について、ガイドライン等に基づきながら当院での取り組みの紹介がありました（以下は主な内容の抜粋です）。

- ・ 感染症治療の変化としては、2015年より抗菌薬適正使用に関連する動きが続いている。日本の抗菌薬使用の現状のひとつとして、外来での小児への処方機会が多いことが挙げられる。当院でも適正使用に向けて取り組んでおり、適正使用率を上げている。適正使用のためには地域住民への啓蒙として「かぜに抗菌薬は効きません」のPRも必要である。小児のCOVID-19感染症では罹患後症状が長引く患者が一定数存在し、精神的・心理的症状から不登校、摂食障害につながることもあるため注意が必要である。
- ・ 熱性けいれんについては現在、既往がある小児の発熱時のジアゼパム投与は原則ルーティンに使用する必要はないとされている。
- ・ 長野県は夜尿症の診療機関が少なく当院でも診療を始めている。子どもの自尊心の低下や虐待につながる恐れがあり適正な時期からの治療が必要である。
- ・ 神経発達症（発達障害）については二次障害を起ささないことが目標となる。自己肯定感の低下等から抑うつ、不登校など様々な問題に発展する危険性がある。幼児期からの「普通に近づける」のではなく「できないことで困らない」ための支援が必要であり、当院でも診療を始めたところである。

神経発達症（発達障害）の小児が増えているなど時機を得た話題について、小児の特性に合わせた治療の考え方、支援の必要性に関するお話は大変興味深く、また専門職としてブラッシュアップの機会になりました。（地域医療連携課 看護師長 角田早苗）



新任医師紹介



磯部 文洋
(いそべ ぶんひろ)

整形外科 医長
上肢再建外科センター 副センター長

出身大学
専門医等
所属学会

- ◆ 浜松医科大学（2012年3月卒）
- ◆ 日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医
- ◆ 日本整形外科学会、日本手外科学会、日本肘関節学会

◆ 7月よりお世話になっております磯部文洋と申します。あづみ病院には以前に2年間、勤めさせていただきました。ご縁があり、また働かせていただくこととなりました。久しぶりの北アルプスを眺めながら通勤できることを嬉しく思っています。手・ひじからあしのことでお困りのことがありましたら、皆さまのお役にたてるよう努めますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



永井 亮輔
(ながい りょうすけ)

整形外科

出身大学
専門医等
所属学会

- ◆ 弘前大学（2020年3月卒）
- ◆ 日本整形外科学会、日本骨折治療学会、日本マイクロサージャリー学会

◆ 7月より整形外科に勤務している永井亮輔と申します。学生時代はサッカーに明け暮れ、体を動かすことが趣味です。時間があるときに、登山、キャンプ、ウィンタースポーツなど北アルプスの山々を堪能したいと思います。まだまだ若輩者ではございますが、皆様のお力になれるよう精一杯精進いたします。よろしくお願いいたします。



がん相談支援センター がんと仕事 「両立支援相談会」

がん相談支援センターでは6月26日に、がんと仕事「両立支援相談会」を開催しました。この相談会は、働きながらがん治療を受けておられる患者さんの就労に関する相談を社会保険労務士が個別にお受けするものです。

かつてがんは「不治の病」というイメージでしたが、治療方法が確立され生存率が向上したことにより「誰もが罹患する可能性のある、長く付き合う病」へと変わってきています。国が策定した第4期がん対策推進基本計画においては、分野別目標の1つである「がんと共生」において、がん患者等の社会的問題への対策（サバイバーシップ支援）として「就労支援」が挙げられています。こうしたことを背景に当センターでもがん患者さんの就労に関する相談に注力すべく両立支援相談会を企画いたしました。

仕事と治療を両立するにはどうしたらよいか、会社には利用できる制度があるのか、労務担当者に相談したいがどのように話せばよいかわからない、など就労に関する相談をおもちの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院がん相談支援センターの両立支援相談会をご紹介ください。今年度中はさらに2回開催し、次回は10月30日の予定です。

(がん相談支援センター 認定がん専門相談員/MSW 西澤亜紀)